

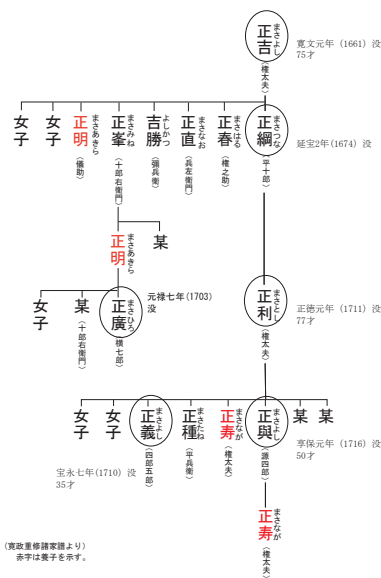
## 百草観音堂と仏教彫刻群

百草観音堂は、百草八幡神社から 500 m ほど山を下った倉沢谷戸に面した場所にあります。武相四十八観音第九番札所となっており、12年に1度の卯年にご開帳されます。平成23年4月に22回目の観音御開扉が行われて多くの方が参拝しました。

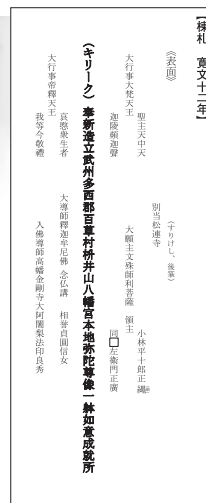
百草の地には、かつて旗本小林権大夫一族が深い関わりを持っていました。寛永十九年(1642)に小林正吉が百草村に300石、下小田中村(川崎市)に100石を知行したのが始まりです。その後、正綱・正利・正與と続き、正與が正徳4年(1714)に村人との間の争いから知行地を越前国に移されるまでの4代72年間、小林氏がこの地を治めました。この間に信仰に関わる痕跡を多く残しています。

寛文12年(1672)に小林正綱・正廣を施主として榊井山八幡宮に納められた棟札、元禄4年(1691)に正與によって倉沢観音堂に寄進された仏具、元禄15年(1702)に正與によって寄進された「榊井山松蓮寺観音堂」の扁額、宝永5年(1708)に正義によって寄進された「榊井山観音堂」銘の手水鉢、「百草村榊井山観音堂開基」の銘が刻まれた正利の寿像(川崎市全龍寺所蔵)などに一族の名を見ることができます。さらに正利は宝永7年(1710)には倉沢に庚申塔を造立しています。小林氏が榊井山松蓮寺や榊井山観音堂、庚申信仰などを通して地元と深く関わりをもっていたことがうかがい知ることができます。百草観音堂は、小林氏の持仏堂であったと推定される倉沢観音堂に由来する榊井山観音堂の系譜を引いていると考えられます。

百草小林権太夫一族の系譜



寛文12年銘の棟札  
(百草八幡神社氏子会蔵)



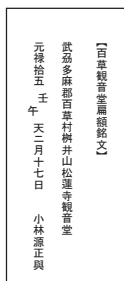
倉沢観音堂の仏具  
(百草八幡神社氏子会蔵)



小林正利造立の庚申塔



百草観音堂の扁額 (百草八幡神社氏子会蔵)



小林正利寿像 (川崎市全龍寺蔵) 右肩に「武州多麻郡百草村榊井山観音堂開基」の銘



平成 19 年（2007）に、百草観音堂文化財調査団（青山学院大学浅井研究室担当）による調査が実施され、堂内の仏像群の時代や像容などの詳細が明らかになりました。

- 1 木造聖観音菩薩立像 平安時代（12世紀）
- 2 木造十一面観音菩薩立像 江戸時代  
（宝永ないし享保年間）
- 3 木造阿弥陀如来坐像 鎌倉時代（14世紀）
- 4 木造大日如来坐像 平安時代（12世紀）
- 5 木造僧形倚像（大） 江戸時代（18世紀）
- 6 木造僧形倚像（小） 江戸時代（18世紀）

附

- 7 横幕 年代不明
- 8 手水鉢 宝永5年
- 9 鰐口 江戸時代（19世紀）

これら一連の仏像群は、平安時代から江戸時代までの各時代の様式を備え、いずれも美術的・技巧的に優れたものです。平安・鎌倉時代の像は、平安時代末から中世にかけて百草に存在したと考えられている真慈悲寺と、またその他の像も江戸時代に建立された榊井山松連寺、後に続く慈岳山松連寺との関連が考えられるものです。百草における寺院の変遷を辿るものとして、また日野市域の地域史・宗教史を理解するうえで欠かせないものであるということから、3点の附（ついたり）を加えて、平成 22 年 8 月に日野市有形文化財（彫刻）に指定されました。本尊の聖観音菩薩立像は、昭和 36 年に日野市指定文化（彫刻）となっていました。百草観音堂仏教彫刻群と名称を変更して改めて指定されました。（百草八幡神社氏子会所蔵）



聖観音菩薩立像



大日如来坐像



阿弥陀如来坐像



十一面観音菩薩立像



僧形倚像（小）



僧形倚像（大）



「真慈悲寺 弥陀如来」横幕



百草観音堂の鰐口



百草観音堂の手水鉢

これらの仏像群は、日野市郷土資料館主催の2回特別展幻の真慈悲寺を追って『真慈悲寺と百草観音堂—時代を越えて育まれた仏像群—』で氏子の皆様のご協力で特別に公開しました。■期間：10月12日（水）から12月18日（日）まで ■会場：日野市立新選組のふるさと歴史館（郷土資料館 小黒恵子）

【問い合わせ先】日野市郷土資料館 電話042-592-0981